

## 幼児のしつけに関する親の意識と態度

池 山 和 子・佐 藤 仁 美・堀 尚 子

(1997年10月15日 受理)

### Parents' Opinions and Attitudes on the Discipline of Younger Children

Kazuko IKEYAMA, Hitomi SATO, Naoko HORI

#### 1. 始めに

近年、地域社会の教育力、家庭の教育力の低下が子供に関する問題の背景として取り上げられるようになってきている。最近はこの教育力を回復しようとする試みや努力もなされるようになってきている。現代では、家庭の教育力という場合、子供が経済的に独立するための職業教育的な役割は殆ど期待されていない。問題とされているのは、一般にしつけといわれる日常的なレベルの基本的な生活習慣、行動や思考様式といったものと考えられる。しつけが身につけているということは個人的な問題であり、基本的な部分は幼児期に主に家庭内で形成されるものとして期待されてきた。一方しつけが身につけているということは、社会に適応するために必要な要素であり、現在問題とされている状態についてその最初の引き金を第2次世界大戦後の日本の伝統文化（伝統的価値体系）の崩壊にあるとされるのも、しつけは所属している社会の在り方を無視してはなりたたないことを示しているものといえる。最近では保護者の方からしつけを家庭でなく幼稚園・保育園さらには学校に期待する声があることも話題となっている。急速な技術進歩、国際化（気持ちの上での生活空間の広がり）、共同体の構造の急激な変化の中で、その変化を感じながら時代的に先の見えにくい中でしつけを行うことはそこに確信のなさや不安を感じるのは当然のことと考えられる。

しつけや家庭教育に関する調査はこれまでも多々なされてきており、近年は国際間の比較もなされるようになった。いくつかの公表されている調査結果から最近の日本のしつけに関する状況をまとめると、①核家族化を背景としてしつけの主な担当者が母親に集約されてきている、その一方②母親にとって子育ての相談相手が身近にいない、と同時に③情報化社会の中で育児情報も氾濫しており、母親が自分でその情報を選択し意志決定していかなければならない、結果的に現代の幼児期は母親の影響力がより強くなっている、といったことが挙げられる。

こうした背景を踏まえて家庭内でのしつけをどのようにしていったらよいか考える必要がある。本研究は、その取り掛かりとして、現在幼児を育てている親がしつけに関してどのような意識をもっているかを調査しようとしたものである。

## II. 方 法

大分市内の集団保育に子供を通わせている幼児の親を対象に質問紙調査を行った。

- 1) 調査対象 大分市内の2幼稚園と1保育園に通う、幼児の保護者362名
- 2) 調査時期 1995年7月
- 3) 調査手続き 各幼稚園および保育園を通じて配付回収した。
- 4) 質問調査用紙 先行調査で用いられた質問内容や項目を参考として、しつけに主に関わる者、参考にするものや相談相手、しつけの内容で力に入れていること、最終的に育てたい子供像、しつけの具体的なやり方、不安・悩み、などA4判8ページにまとめたものである。

## III. 結果と考察

### (1) 回収率, 対象の属性

配付数と回収率を〔表1〕に示す。性別構成比を〔表2〕に示す。〔表3〕は、質問紙への記入回答者, 〔表4〕は年齢クラス別構成比である。この2点については偏りがあるが、今回は回収された全307票全体を用いて考察する。祖父母との同居状況, 記入者の就労状況, 出生順別構成比は〔表5〕〔表6〕〔表7〕の通りである。さらに記入者の就労状況と祖父母との同居については偏りがみられたので〔表8〕に示す。

〔表1〕対象園と回収率

	在籍数	配付数	回収数	人数 回収率
A幼稚園	227	221	194	87.8%
B児童園	101	97	75	77.3%
C保育園	62	44	38	86.4%
計	394	362	307	84.8%

〔表2〕性別 人(%)

男児	158( 51.5%)
女児	148( 48.5%)
NA=1	

〔表3〕質問紙への記入者 人(%)

母親	229( 97.4%)
父親	7( 2.3%)
祖母	1( 0.3%)

〔表4〕対象児の年齢クラス 人(%)

6歳児クラス	93( 30.3)
5歳児クラス	125( 40.7)
4歳児クラス	79( 25.7)
3・2歳児クラス	9( 3.0)

〔表5〕祖父母との同居 人(%)

同居している	232( 75.6%)
同居していない	75( 24.4%)

〔表6〕記入者の就労 人(%)

フルタイムで	49( 16.2%)
自営、パート等	67( 22.1%)
無職	166( 55.0%)

〔表7〕出生順 人(%)

第一子	168( 54.7%)
第二子	101( 32.9%)
第三子以上	38( 12.4%)

〔表8〕記入者の就労状況と祖父母との同居 人(%)

	祖父母と同居	同居していない
無就労	32( 17.2)	154( 82.8)
フルタイム	21( 42.9)	28( 57.1)
パート、自営等	21( 31.3)	46( 68.7)

$$\chi^2=15.97 \quad df=2 \quad P<0.01 \quad NA=5$$

## (2) 全体的な傾向と幼児の性別による傾向

しつけに主に関わっている人としては〔表9〕にみられるように、母親は98%が関わっているが、父親も半数以上が関わっている人として挙げられている。男児において父親の関わりが幾分高い。家庭内でのしつけに関する話し合いをあまりしないと回答している者は全体で7.5%でありいつもでないにしろある程度の家族の話し合いがもたれているようである〔表10〕。

しつけや教育のことについて主に相談する人（複数回答）としては、父親を挙げる者が最も多く全体で71.7%である。次に挙がっているのは割合が下がるが記入者の実母-23.8%，次に友人-19.5%，記入者のきょうだい-10.1%と続く。園の先生に相談するのは全体で7.2%であるが、男児の方の割合が有意に高い〔表11〕。

〔表12〕はしつけや教育の主な参考としているものを主なものから3位まで順位をつけて選択を求めた結果である。全体として家族・親戚の意見が最も高い。1位，2位，3位までに選択されている項目としては幼稚園や保育園の先生の話，友人や近所の人の意見が高い。他方マスコミ関係，成人学級を通じて得られる情報はあまり参考にしていないように思われる。

〔表9〕しつけに主に関わっている人（複数回答） 人(%)

	父親	母親	祖父	祖母	その他
男児	107( 67.7)	156( 98.7)	8( 5.1)	25( 15.8)	2( 1.3)
女児	78( 52.7)	145( 98.0)	5( 3.4)	32( 21.6)	2( 1.4)
計	185( 60.3)	302( 98.4)	13( 4.2)	57( 18.6)	4( 1.3)

NA=1

〔表10〕しつけや教育についての家族内の話し合い

	よくする	時々する	あまりしない
男児	45( 28.7)	98( 62.4)	14( 8.9)
女児	46( 31.1)	93( 62.8)	9( 6.1)
計	92( 30.1)	191( 62.4)	23( 7.5)

人(%)

NA=1

〔表11〕主に相談する人（複数回答） 人(%)

	男児	女児	計
子供の父親	118( 74.7)	101( 68.2)	220( 71.7)
子供の母親	3( 1.9)	5( 3.4)	8( 2.6)
記入者の実母	36( 22.8)	37( 25.0)	73( 23.8)
“ きょうだい	12( 7.6)	19( 12.8)	31( 10.1)
配偶者の親	7( 4.4)	10( 6.8)	17( 5.5)
記入者の祖父母	1( 0.6)	1( 0.7)	2( 0.7)
親戚の人	2( 1.3)	0( 0.0)	2( 0.7)
友人	35( 22.2)	25( 16.9)	60( 19.5)
近所の人・知人	12( 7.6)	7( 4.7)	19( 6.2)
園の先生	16( 10.1)	6( 4.1)	22( 7.2) *
誰にも相談しない	1( 0.6)	2( 1.4)	3( 1.0)

\*  $\chi^2=4.22$  df=1 p<0.05

〔表12〕しつけや教育の主な参考とするもの 3位まで選択 人(%)

	1位	2位	3位	選択しない
家族・親戚の意見	164( 53.4)	49( 16.0)	30( 9.8)	62( 20.3)
テレビ・ラジオ	7( 2.3)	16( 5.2)	33( 10.7)	249( 81.6)
育児書	21( 6.9)	31( 10.2)	24( 7.9)	229( 75.1)
婦人雑誌・育児雑誌	4( 1.3)	25( 8.2)	29( 9.4)	247( 81.0)
家庭教育学級・幼児教育学級	16( 5.2)	25( 8.2)	20( 6.6)	244( 80.0)
幼稚園や保育園の先生の話	26( 8.5)	71( 23.1)	59( 19.2)	149( 48.9)
友人や近所の人の意見	23( 7.5)	73( 23.9)	74( 24.3)	135( 44.3)
何も参考としない	31( 10.1)	2( 0.7)	13( 4.3)	259( 84.9)

しつけの全体的な自分の態度としては、〔表13〕に見られるように、厳しいと考えている者が全体で19.5%、あまいと考えている者は全体で16.0%、全体の6割強の者が厳しくもあまくもない、ふつうであると考えている。

最終的に育てたい子供像として3項目の選択を求めた結果を〔表14〕に示す。最も選択の多かった項目は、やさしさ・思いやりのある子58.0%、2番目が自分の考えで行動できる子36.8%、以下

〔表13〕しつけの態度 人(%)

	厳しい	あまい	ふつう
男児	28( 17.7)	22( 13.9)	108( 68.4)
女児	31( 20.9)	27( 18.2)	90( 60.8)
計	60( 19.5)	49( 16.0)	198( 64.8)

NA=1

健康な子35.2%、物事をよく考え正しく判断できる子31.6%、友達と仲良くできる協調性のある子28.3%、粘り強く最後までやり通す子22.8%、素直な子19.5%と続いている。選択された割合としては高くないが、創造力の豊かな子と、強くたくましい子の選択には有意な性差があり、男児の方に選択割合が高い。

〔表14〕育てたい子供像<3項目選択>

	男 児	女 児	計
健康な子	49( 31.0)	59( 39.9)	108( 35.2)
礼儀正しい子	11( 7.0)	15( 10.1)	26( 8.5)
自分の考えで行動できる子	61( 38.6)	51( 34.5)	113( 36.8)
進んで実行する子	2( 1.3)	2( 1.4)	4( 1.3)
責任感の強い子	8( 5.1)	4( 2.7)	12( 3.9)
粘り強く最後までやり通す子	37( 23.4)	33( 22.3)	70( 22.8)
創造力の豊かな子	19( 12.0)	7( 4.7)	27( 8.8)*1
落ち着いた子	1( 0.6)	3( 2.0)	4( 1.3)
やさしさ・思いやりのある子	90( 57.0)	87( 58.8)	178( 58.0)
指導力がありリーダーになれる子	1( 0.6)	0( 0.0)	1( 0.3)
強くたくましい子	11( 7.0)	3( 2.0)	14( 4.6)*2
親孝行な子	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
男児らしい、女児らしい子	3( 1.9)	0( 0.0)	3( 1.9)
友達と仲良くできる協調性のある子	49( 31.0)	38( 25.7)	87( 28.3)
物事をよく考え正しく判断できる子	52( 32.9)	45( 30.4)	97( 31.6)
正義感の強い子	3( 1.9)	0( 0.0)	3( 1.0)
きまりを守り人に迷惑をかけない子	14( 8.9)	14( 9.5)	28( 9.1)
金銭や物を大切にする子	7( 4.4)	7( 4.7)	14( 4.6)
勤労を尊び働くことをいとわない子	4( 2.5)	3( 2.0)	7( 2.3)
素直な子	25( 15.8)	35( 23.6)	60( 19.5)
明朗な子	10( 6.3)	14( 9.5)	24( 7.8)
勉強がよくできる子	1( 0.6)	1( 0.7)	2( 0.7)
人に親切な子	3( 1.9)	9( 6.1)	12( 3.9)
正直な子	10( 6.3)	12( 8.1)	22( 7.2)
平凡でまじめな子	2( 1.3)	2( 1.4)	4( 1.3)

\*1  $\chi^2=5.23$  df=1  $P<0.05$

\*2  $\chi^2=4.26$  df=1  $P<0.05$

〔表15〕は日常のしつけで力を入れていることとして3項目以内で選択を求めた結果である。最も選択の多い項目は、望ましい基本的な習慣をつける-56.9%、以下2番目があいさつなどの礼儀43.8%、友達と仲良く遊べる-41.5%、人に迷惑をかけない-31.0%、健康・安全に気をつける-28.4%、自分の考えなどをはっきり言える-24.5%、物を大切にする-21.6%と続いている。人間関係を大切にしたいという思いがうかがわれる点は、最終的に育てたい子供像と共通しているが、日常では礼儀が大切されているが、人間性として身につけるものとしては良い人間関係能力や思考力をより重くみている様子が感じられる。

しつけのやり方として、指

示・叱責的な態度と受容・賞賛的な態度のどちらが強いかわねた結果が〔表16〕である。

全体としては半々との回答が56.5%であるが、受容・賞賛的な態度は10.5%であるのに対し、指示・叱責的な態度は併せて32.9%と高い。先にしつけの全体的態度についての回答結果を〔表13〕でみたが、自分は厳しいと回答した者の結果とずれが感じられる。

さらに詳しくしつけに関する具体的な行動を17項目挙げ、それぞれを「したことがない」「たまにすることがある」「だいたいしている」「いつもしている」の4段階

評定形式で回答を求めたが、その結果が〔表17〕である。「たまにすることがある」「だいたいしている」の選択が高い評定の仕方を基本と考えて、選択が「したことがない」あるいは「いつもしている」のいずれかの方向にずれて高い項目をみると、「している」方向に割合の高い項目としては親のいうことを聞かないときはしかる、子供が話すときはよく聞いて理解するようにしている、食事・睡眠・遊ぶことなどによい習慣を身につけさせるようにしている、正しいことをしたときはほめたりして自信をもたせるようにしている、しつけるときははっきり自信をもって話すようにしている、の5項目である。「していない」方向に割合が高い項目は、正しくないことをしているときは関心のないふりをしている、の1項目である。や

〔表15〕日常のしつけで力を入れていること&lt;3項目まで選択&gt;人(%)

	男児	女児	計
望ましい基本的な生活習慣をつける	84( 53.5)	90( 60.8)	174( 56.9)
健康・安全に気をつける	50( 31.8)	37( 25.0)	87( 28.4)
物を大切に使う	36( 22.9)	30( 20.3)	66( 21.6)
就学後困らない学力をつける	3( 1.9)	7( 4.7)	10( 3.3)
音楽や絵などに興味を育てる	1( 0.6)	2( 1.4)	3( 1.0)
友達と仲良く遊べる	65( 41.4)	61( 41.2)	127( 41.5)
人に迷惑をかけない	53( 33.8)	42( 28.4)	95( 31.0)
偏食のない食べ方、食事作法	18( 11.5)	23( 15.5)	41( 13.4)
個性や才能などを伸ばす	14( 8.9)	10( 6.8)	24( 7.8)
ことばづかい	12( 7.6)	12( 8.1)	24( 7.8)
あいさつなどの礼儀	68( 43.3)	66( 44.6)	134( 43.8)
自分の考えなどをはっきり言える	39( 24.8)	35( 23.6)	75( 24.5)
物事の判断能力を養う	20( 12.7)	15( 10.1)	36( 11.8)
家事の手伝い	2( 1.3)	6( 4.1)	8( 2.6)

〔表16〕叱る命令指示と誉め認め礼をいう態度 人(%)

	殆どが叱る命令指示が多い	叱る命令指示が多い	双方の態度が半々	誉め認め礼を言うことが多い	自由に任せ反応干渉しない
男児	1( 0.6)	53( 33.8)	88( 56.1)	15( 9.6)	0( 0.0)
女児	0( 0.0)	47( 31.8)	84( 56.8)	17( 11.5)	0( 0.0)
計	1( 0.3)	100( 32.7)	173( 56.5)	32( 10.5)	0( 0.0)

〔表17〕しつけのやり方—各項目を日常よくするかしないか 人(%)

	したことがない	たまにすることがある	だいたいしている	いつもしている
夫と相談し何を何時からさせるか決めている	115( 37.7)	118( 38.7)	62( 20.3)	10( 3.3)
してよい事と悪い事を決めて、事前に子供に話す	29( 9.5)	117( 38.4)	124( 40.7)	35( 11.5)
親の言うことを聞かないときはしかる	3( 1.0)	54( 17.7)	131( 43.0)	117( 38.4)
年齢と能力にあわせて、しつけの内容を決めている	35( 11.5)	58( 19.0)	171( 56.1)	41( 13.4)
子供をある程度自由放任している	10( 3.3)	125( 41.0)	156( 51.1)	14( 4.6)
周囲の状況を理解して自分がどうするか考えるようさせている	20( 6.6)	116( 38.0)	119( 39.0)	50( 16.4)
まず理由を説明してから何かをさせるようにしている	18( 5.9)	127( 41.6)	134( 43.9)	26( 8.5)
子供が話す時はよく聞いて理解するようにしている	0( 0.0)	24( 7.8)	176( 57.5)	106( 34.6)
食事、睡眠、遊ぶことなどについて、よい習慣をつけさせる	3( 1.0)	30( 9.8)	175( 57.2)	98( 32.0)
質問やアドバイスを何が間違っているか理解させる	4( 1.3)	64( 20.9)	156( 51.0)	82( 26.8)
長所を伸ばすため、良い点を見つけるよう心掛けている	2( 0.7)	64( 20.9)	164( 53.6)	76( 24.8)
正しいことをしたときはほめたり自信をもたせるようにしている	0( 0.0)	16( 5.2)	120( 39.3)	169( 55.4)
子供が正しくないことをしているときは関心のないふりをする	181( 59.2)	112( 39.5)	11( 3.6)	2( 0.7)
子供が正しくないことをしようとしたらまず止めさせる	8( 2.6)	86( 28.1)	116( 37.9)	96( 31.4)
親が何時もよいモデル(手本)となるよう心掛けている	7( 2.3)	102( 33.3)	180( 58.8)	17( 5.6)
しつけるときははっきり自信をもって話すようにしている	1( 0.3)	27( 8.9)	179( 58.7)	98( 32.1)
子供のしたことに関心からその結果の良し悪しを伝える	29( 9.5)	175( 57.4)	83( 27.2)	18( 5.9)

〔表18〕家庭でしつけは充分できていると思うか

人(%)

	充分できている	まあまあできている	あまりできていない	殆どできていない	わからない	その他
男児	1( 0.6)	83( 52.5)	62( 39.2)	3( 1.9)	8( 5.1)	1( 0.6)
女児	3( 2.0)	81( 54.7)	51( 34.5)	1( 0.7)	9( 6.1)	3( 2.0)
計	4( 1.3)	165( 53.7)	113( 36.8)	4( 1.3)	17( 5.5)	4( 1.3)

〔表19〕しつけが充分できない理由

人(%)

	指導が不十分	しつけに関心がない	しつけの方針がない	家族内に意見の相違	子供が勉強で忙しい	環境が悪い	役を果たさない家族	わからない	その他
男児	27( 43.5)	1( 1.6)	16( 25.8)	7( 11.3)	0( 0.0)	0( 0.0)	1( 1.6)	1( 1.6)	9( 14.5)
女児	18( 32.7)	2( 3.6)	11( 20.0)	11( 20.0)	0( 0.0)	1( 1.8)	2( 3.6)	3( 5.5)	7( 12.7)
計	45( 38.5)	3( 2.6)	27( 23.1)	18( 15.4)	0( 0.0)	1( 0.9)	3( 2.6)	4( 3.4)	16( 13.7)

〔表20〕一世代上と今の家庭でのしつけの比較

人(%)

	今の方がよく行われている	一世代前の方が行われていた	同じくらいと思う	一概に言えない	わからない
男児	12( 7.7)	52( 33.3)	28( 17.9)	58( 37.2)	6( 3.8)
女児	15( 10.3)	44( 30.3)	23( 15.9)	62( 42.8)	1( 0.7)
計	27( 8.9)	96( 32.1)	51( 16.9)	120( 39.7)	7( 2.3)

NA=5

〔表21〕しつけに関する不安や悩みく複数回答&gt;

人(%)

	男児	女児	計
しつけに自信が持てない	33( 20.9)	23( 15.5)	56( 18.2)
子供が勉強しない	2( 1.3)	1( 0.7)	3( 1.0)
子供が何を考えているのか分からない	2( 1.3)	4( 2.7)	6( 2.0)
子供の友達に関して (いない、悪い等)	11( 7.0)	5( 3.4)	16( 5.2)
家族がしつけに協力してくれない	5( 3.2)	4( 2.7)	9( 2.9)
子供がいつけに従わず反抗的である	11( 7.0)	9( 6.1)	20( 6.5)
しつけについて相談相手がない	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
親族にやかましく口出しする物がある	6( 3.8)	8( 5.4)	14( 4.6)
子供の身体と健康に不安や悩みがある	16( 10.1)	18( 12.2)	34( 11.1)
生活習慣について不安や悩みがある	15( 9.5)	14( 9.5)	29( 9.4)
知的発達と言葉について不安や悩みがある	14( 8.9)	1( 0.7)	15( 4.9) *1
情緒・情操について不安や悩みがある	11( 7.0)	12( 8.1)	23( 7.5)
子供の自立心・社会性に不安や悩みがある	24( 15.2)	19( 12.8)	44( 14.3)
子供のくせに不安や悩みがある	11( 7.0)	18( 12.2)	29( 9.4)
不安や悩みはない	41( 25.9)	64( 43.2)	105( 34.2) *2

\*1  $\chi^2=10.98$  df=1 P<0.01 \*2  $\chi^2=10.14$  df=1 P<0.01

や「している方向に割合の高い項目としては、子供が間違っことをしたとき質問やアドバイスなどをして何が間違っているか理解させる、長所を伸ばすため良い点を見つけるよう心掛けている、親がいつもよいモデル(手本)となるように心掛けている、の3項目を挙げることができる。他方「していない」方向にやや割合が高いものとして、夫と相談して何をいつからさせるかを決めている、の1項目である。

しつけの達成感とその理由についての結果を〔表18〕と〔表19〕

に示す。まあまあできていると回答している者が最も多く (53.7%), あまりできていない (36.8%) の選択割合より高い。充分できない理由としては, 指導が充分行われていないを挙げている者が最も高い (38.5%) が, しつけの方針がない (23.1%), 家族内に意見の相違がある (15.4%) が合わせて38.5%であり, しつけの方向に確信が得られない様子が感じられる。

今の子供の世代とその親の世代とでしつけの成され方の比較を求めた結果が〔表20〕である。最も選択が高いのは, 一概には言えない (39.7%) であり, 今の方がよく行われている (8.9%), 同じくらいと思う (16.9%) も合わせて25.8%の選択がなされている。

しつけに関する不安や悩みの回答結果を〔表21〕に示す。全体に, ない (34.2%) の選択が最も高く, 次は, しつけに自信がもてない (18.2%) である。知的発達とことばについて不安や悩みがある, 不安や悩みはないの2項目については性別によって有意な差がみられる。

〔表22〕子供の出生順による, 教育やしつけについて主に相談する人として実母を挙げた者の割合 人(%)

第一子	第二子	第三子以下	計
51( 30.4)	16( 15.8)	6( 15.8)	73( 23.8)
$\chi^2=8.86$ df=2 $P<0.05$			

〔表24〕出生順別日常のしつけで力を入れている項目3つのうち「物を大切にする」を挙げた者の割合 人(%)

第一子	第二子	第三子以下	計
45( 26.8)	14( 14.0)	7( 18.4)	66( 21.6)
$\chi^2=6.31$ df=2 $P<0.05$			

〔表26〕出生順別最終的に育てたい子供像の選択3項目に「責任感の強い子」を挙げた者の割合 人(%)

第一子	第二子	第三子以下	計
7( 4.2)	1( 1.0)	4( 10.5)	12( 3.9)
$\chi^2=6.75$ df=2 $P<0.05$			

〔表28〕出生順別しつけの不安やなやみについて「ない」を選択した者の割合 人(%)

第一子	第二子	第三子以下	計
41( 24.4)	45( 44.6)	19( 50.0)	105( 34.2)
$\chi^2=16.19$ df=2 $P<0.01$			

〔表23〕出生順によるしつけの態度の割合 人(%)

	きびしい	あまい	ふつう
第一子	45( 26.8)	21( 12.5)	102( 60.7)
第二子	10( 9.9)	18( 17.8)	73( 72.3)
第三子以上	5( 13.2)	10( 26.3)	23( 60.5)
計	60( 16.0)	49( 16.0)	198( 64.5)
$\chi^2=15.55$ df=4 $P<0.01$			

〔表25〕出生順別日常のしつけで力を入れている項目3つのうち「家事の手伝い」を挙げた者の割合 人(%)

第一子	第二子	第三子以下	計
2( 1.2)	6( 6.0)	0( 0.0)	8( 2.6)
$\chi^2=6.86$ df=2 $P<0.05$			

〔表27〕出生順別日常のしつけの不安やなやみについて「しつけに自信が持てない」を選択した者の割合

第一子	第二子	第三子以下	計
42( 25.0)	12( 11.9)	2( 5.3)	56( 18.2)
$\chi^2=12.18$ df=2 $P<0.01$			

〔表29〕記入者の就労状況別主にしつけに関わる者 人(%)

	父親	母親	祖父	祖母	その他
無就労	128( 68.8)	185( 99.5)	5( 2.7)	20( 10.8)	2( 1.1)
フルタイム就労	23( 46.9)	48( 98.0)	6( 12.2)	22( 44.9)	1( 2.0)
自営・パート等	33( 49.3)	65( 97.0)	2( 3.0)	14( 20.9)	1( 1.5)

$\chi^2=34.42$  df=8  $P<0.01$

NA=5

〔表30〕記入者の就労状況別しつけに関わる人として「子供の父親」を挙げた者の割合 人(%)

無就労	フルタイム就労	自営、パート等
148(79.6)	26(53.1)	44(65.7)
$\chi^2=15.39$ df=2 P<0.01		

〔表31〕記入者の就労状況別日常のしつけで力を入れている3項目に「偏食のない食べ方、食事作法」を挙げた者の割合 人(%)

無就労	フルタイム就労	自営、パート等
16(8.6)	7(14.3)	17(25.4)
$\chi^2=11.99$ df=2 P<0.01 NA=5		

〔表32〕記入者の就労状況別「夫と相談して何をいつからするか決めている」頻度 人(%)

	したことがない	たまにする	だいたいしてる	いつもしている
無就労	60(32.6)	69(37.5)	47(25.5)	8(4.3)
フルタイム	22(44.9)	24(49.0)	3(6.1)	0(0.0)
パート、自営等	31(46.3)	22(32.8)	12(17.9)	2(3.0)
$\chi^2=14.86$ df=6 P<0.05 NA=5				

〔表33〕記入者の就労状況別「正しくないことをしているとき関心のないふりをする」頻度 人(%)

	したことがない	たまにする	だいたいしてる	いつもしている
無就労	101(54.6)	76(41.1)	8(4.3)	0(0.0)
フルタイム	37(75.5)	11(22.4)	1(2.0)	0(0.0)
パート、自営等	40(59.7)	23(34.3)	2(3.0)	2(3.0)
$\chi^2=14.31$ df=6 P<0.05 NA=5				

〔表34〕記入者の就労状況別「しつけるときははっきり自信をもって話すようにしている」頻度 人(%)

	したことがない	たまにする	だいたいしてる	いつもしている
無就労	0(0.0)	19(10.3)	114(62.0)	51(27.7)
フルタイム	0(0.0)	0(0.0)	25(51.0)	24(49.0)
パート、自営等	1(1.5)	6(9.0)	39(58.2)	21(31.3)
$\chi^2=14.75$ df=6 P<0.05 NA=5				

〔表35〕記入者の就労状況別最終的に育てたい子供像の3項目に選択された項目で有意差のあった項目とその割合

	無就労	フルタイム	パート、自営等	$\chi^2$ 値	df=2
落ち着きのある子	1(0.5)	0(0.0)	3(4.5)	6.64	*
平凡でまじめな子	1(0.5)	0(0.0)	3(4.5)	6.64	*
*P<0.05 NA=5					



〔表36〕祖父母との同居しているしていない別しつけに主に関わる人＜複数選択＞ 人(%)

	父親	母親	祖父	祖母	その他
祖父母と同居	158( 68.1)	231( 99.6)	7( 3.0)	21( 9.1)	2( 0.9)
同居していない	27( 36.0)	71( 94.7)	6( 8.0)	36( 48.0)	2( 2.7)

$$\chi^2=59.22 \quad df=4 \quad P<0.01$$

(3) 出生順, 記入者の就労状況, 祖父母との同居による傾向

子供の出生順位として第一子, 第二子, 第三子以下の3項目, 記入者の就労状況としてフルタイムで就労しているか, 専業主婦であるか, 自営・パート・内職など家庭にいる時間はある程度とれる可能性の高い就労状況かの3項目, 祖父母とは同居しているかしていないかの2項目によって, それぞれの質問項目とのクロス集計を行い,  $\chi^2$ 検定によってその有意差を検討した。

それぞれ有意な傾向のあった項目のみ挙げる。

出生順によって有意な差のみられた質問項目は, 〔表22〕～〔表28〕に示す項目である。これらの結果には, 第一子では, 実母に相談し, 厳しい態度でしつけ, しつけに自信がもてず, 不安や悩みがない状態は少ないと考えられるのに対し, 第三子では対照的にしつけの態度は甘く, 自信をもて, 不安や悩みのない状態が多い, という様子がうかがわれる。

記入者の就労状況によって有意な差のみられた質問項目を〔表29〕～〔表35〕に示す。この結果で目立つのは, フルタイムで就労している場合は子供の父親の関わりが専業主婦の場合にくらべて低い, 言い換えれば専業主婦の場合の方が父親の子供のしつけへの関わりの方がフルタイムの仕事をもっている親より高い点である。

祖父母と同居しているかしていないかで有意差のみられた質問項目は〔表36〕～〔表38〕に示したものである。(先にみたようにフルタイムで就労している記入者の方が, 祖父母との同居率が高い〔表8〕。) この結果からは祖父母と同居していない記入者の方が, 同居している記入者より, 子供に強くたくましくなってほしいと考えており, 自立心・社会性の育ちに不安を感じていると考えられる。

(4) しつけのやり方が似ていると考えられるグループとその影響

しつけの日常の具体的なやり方について, 〔表17〕に示したように17項目をあげて4段階評定で回答を求めた。この回答から, 数量化Ⅲ類によりしつけのやり方の要素を探し, そのサンプルスコ

〔表37〕祖父母と同居しているしていない別育てたい子供像3項目に「強くたくましい子」を挙げた者の割合 人(%)

祖父母と同居	同居していない
0( 0.0)	14( 6.0)

$$\chi^2=4.74 \quad df=1 \quad P<0.05$$

〔表38〕祖父母と同居しているしていない別しつけの不安悩みとして「子供の自立心・社会性」を挙げた割合 人(%)

祖父母と同居	同居していない
5( 6.7)	39( 16.8)

$$\chi^2=4.75 \quad df=1 \quad P<0.05$$

〔表39〕しつけのやり方数量化Ⅲ類カテゴリースコア

		I 軸	II 軸	III 軸
夫と相談して 子供に何をい つからさせる か決めている	したことがない	-0.002031 (34)	-0.020005 (47)	0.009431 (16)
	たまにする	-0.004304 (49)	0.013908 (2)	-0.007566 (55)
	だいたいしている	0.008918 (20)	0.009082 (12)	-0.002256 (43)
	いつもしている	0.017840 (15)	0.008706 (13)	-0.004863 (50)
して良いこと 悪いことを決 めておき事前 に子供に話す	したことがない	-0.007248 (50)	-0.026210 (50)	0.046254 (6)
	たまにする	-0.007218 (48)	-0.008889 (38)	-0.004612 (48)
	だいたいしている	0.001040 (26)	0.015241 (3)	-0.006622 (53)
	いつもしている	0.027457 (8)	-0.002603 (31)	-0.000232 (35)
親の言うこと を聞かないと きはしがる	したことがない	0.062522 (1)	-0.044256 (59)	0.048891 (5)
	たまにする	-0.001083 (39)	-0.019333 (46)	-0.001668 (39)
	だいたいしている	-0.004339 (42)	0.005007 (19)	-0.000730 (45)
	いつもしている	0.003799 (23)	0.004323 (22)	0.003073 (25)
年齢と能力に あわせてしつ けの内容を決 めている	したことがない	-0.007000 (48)	-0.030190 (52)	0.033700 (7)
	たまにする	-0.015597 (55)	-0.006224 (33)	-0.012075 (57)
	だいたいしている	-0.001352 (31)	0.011618 (5)	-0.006733 (41)
	いつもしている	0.035086 (5)	-0.014174 (44)	-0.014559 (58)
ある程度自由 放任している	したことがない	-0.003392 (38)	0.013186 (1)	0.006132 (22)
	たまにする	-0.001904 (33)	0.007694 (14)	-0.005445 (52)
	だいたいしている	-0.000295 (29)	-0.001252 (29)	0.007644 (20)
	いつもしている	0.022217 (12)	-0.062872 (63)	-0.039927 (63)
周囲の状況を 理解してどう するか考え るように話し	したことがない	-0.030036 (61)	-0.056041 (62)	0.052941 (4)
	たまにする	-0.008981 (33)	0.003037 (26)	0.000916 (30)
	だいたいしている	-0.001474 (32)	0.011101 (7)	-0.015248 (59)
	いつもしている	0.036613 (4)	-0.010246 (39)	0.012045 (11)
まず理由を説 明してからさ せるようにし ている	したことがない	-0.034164 (62)	-0.050617 (61)	0.055068 (4)
	たまにする	-0.011454 (54)	0.005873 (17)	0.001556 (28)
	だいたいしている	0.007270 (21)	0.004015 (24)	-0.009079 (56)
	いつもしている	0.041816 (2)	-0.013576 (42)	0.001061 (29)
子供の話はよく 聞いて理解 するようにし ている	たまにする	-0.037185 (63)	-0.044006 (56)	-0.029650 (36)
	だいたいしている	-0.008247 (51)	0.011351 (6)	-0.001247 (61)
	いつもしている	0.022062 (13)	-0.008400 (37)	0.008881 (17)
食事睡眠遊び などについて よい習慣をつ きかせる	したことがない	-0.002114 (36)	-0.047453 (60)	0.010915 (13)
	たまにする	-0.025415 (59)	-0.039631 (55)	-0.031029 (62)
	だいたいしている	-0.005670 (46)	0.005321 (18)	0.000583 (32)
	いつもしている	0.017746 (16)	0.004509 (20)	0.008249 (19)
間違っことを したら質問 やアドバイス で理解させる	したことがない	-0.055052 (66)	-0.040868 (56)	0.080470 (1)
	たまにする	-0.025681 (60)	-0.013381 (41)	0.001756 (27)
	だいたいしている	-0.003737 (39)	0.010433 (3)	-0.001702 (40)
	いつもしている	0.029206 (7)	-0.006684 (24)	-0.002182 (42)
長所を伸ばす ためによい点 を見つけて よう心掛けて	したことがない	0.020935 (14)	-0.032166 (43)	0.063081 (2)
	たまにする	-0.021401 (58)	0.007731 (35)	0.000327 (33)
	だいたいしている	-0.005164 (45)	0.009402 (3)	0.000029 (34)
	いつもしている	0.029954 (6)	-0.013926 (43)	-0.002128 (41)
正しいことを したらほめ たり自信をも たせるように	たまにする	-0.044146 (65)	-0.025569 (49)	0.003809 (24)
	だいたいしている	-0.016351 (56)	0.006832 (16)	-0.003756 (48)
	いつもしている	0.016072 (17)	-0.002421 (30)	0.002331 (26)
正しくないこと をしようとし るとき無関 心のふり	したことがない	0.003661 (24)	-0.001120 (28)	0.004677 (23)
	たまにする	-0.006386 (47)	0.004393 (21)	-0.003048 (44)
	だいたいしている	0.002927 (25)	0.000534 (27)	0.010369 (14)
	いつもしている	0.009416 (19)	-0.142955 (65)	-0.299614 (65)
正しくないこと をしようとし るときまず 止めさせる	したことがない	-0.004775 (44)	-0.032722 (54)	-0.017783 (60)
	たまにする	-0.004348 (41)	-0.016464 (45)	-0.003730 (47)
	だいたいしている	-0.004443 (43)	0.011800 (4)	-0.001629 (38)
	いつもしている	0.009439 (18)	0.003228 (25)	0.006676 (21)
親がよいモデ ル(手本)と なるよう心掛 けている	したことがない	-0.000275 (28)	-0.084854 (64)	-0.110556 (64)
	たまにする	-0.017091 (57)	-0.005595 (21)	0.008731 (18)
	だいたいしている	0.005984 (22)	0.007459 (15)	-0.001588 (37)
	いつもしている	0.036691 (3)	-0.010448 (40)	0.011629 (12)
しつけるとき ははっきり自信 をもって話 すようにする	したことがない	0.024031 (11)	-0.026373 (60)	-0.439230 (60)
	たまにする	-0.040406 (64)	-0.029209 (31)	0.025907 (9)
	だいたいしている	-0.008859 (52)	0.010093 (3)	-0.006637 (24)
	いつもしている	0.025824 (10)	-0.008367 (36)	0.010160 (15)
したことに対し 結果の良し 悪をすぐ伝え る	したことがない	-0.002051 (35)	-0.043077 (57)	0.031866 (8)
	たまにする	-0.002625 (37)	0.004242 (23)	-0.004973 (46)
	だいたいしている	0.000267 (27)	0.010946 (8)	-0.003620 (16)
	いつもしている	0.026608 (9)	-0.023291 (48)	0.013816 (10)

注) ○囲み数字は各軸で降順

アをクラスター分析にかけてサンプルのグループ化を試みた。各質問項目のカテゴリースコアをⅢ軸まで

〔表39〕に示した。Ⅲ軸までの固有値を〔表40〕に示したがこの表にみられるようにⅢ軸までの累積寄与率は18.0%と低く、この3軸以外に多くの要因がからまっていることが推測される。クラスター分析の結果から対象を新たに4つのグループに分けたが、その人数と割合は〔表41〕の通りである。カテゴリースコアから各軸の意味する要素を解釈してみると、Ⅰ軸は、プラス方向は親が積極的にしつけに関する事柄を実行、マイナス方向は消極的と考えることができる、Ⅱ軸は、プラス方向は親の方でしつけの方針を決めてその考えを子供に伝えていく、マイナス方向は子供の生活に無干渉・自由放任、Ⅲ軸はプラス軸は親自身の行動に気をつけることに重点があり、マイナス方向は子供の考えや気持ちに重みがあると解釈される。

各グループのそれぞれの対象の各軸のカテゴリースコアは〔表41〕に示される位置にあり、従って、Aグループはしつけに消極的で子供を自由放任しどちらかと言えば親がモデルになるよう親自身の行動に重みをおく傾向のあるグループ、BグループはAグループ同様しつけに消極的で子供を自由放任しどちらかといえは親自身の行動より子供の考えに重

〔表40〕固有値数-しつけのやり方数量化Ⅲ類による

	I 軸	II 軸	III 軸
固有値	0.2242	0.1607	0.1334
寄与率	7.8(%)	5.6(%)	4.6(%)
累積%	7.8(%)	13.4(%)	18.0(%)

〔表41〕数量化Ⅲ類とクラスター分析によるしつけのやり方の似ているグループのそれぞれの特徴

	人(%)	I 軸	II 軸	III 軸
Aグループ	30( 10.1)	-	-	+
Bグループ	28( 9.4)	-	-	-
Cグループ	170( 57.0)	+ -	+	+ -
Dグループ	70( 23.5)	+	-	+ -

〔表42〕数量化Ⅲ類とクラスター分析によるしつけのやり方の似ているグループ別日常のしつけで力をいれている項目で有意差のあるもの 人(%)

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	$\chi^2$ 値	
基本的な生活習慣	15( 50.0)	11( 39.3)	108( 63.5)	35( 50.0)	4.47	*
物事の判断力を養う	2( 6.7)	2( 7.1)	16( 9.4)	15( 21.4)	8.54	*

df=3 \* P&lt;0.05

みをおく傾向のあるグループ、Cグループはしつけに積極的なところも消極的なところもあるが親の方で予め考えた方針を子供に伝えていくが親自身の行動と子供の考えとどちらに重みのあるといえない傾向のあるグループ、Dグループは、しつけに積極的で、子供を自由放任し親自身の行動と子供の考えのどちらに重みがあるがとも言えないグループとして、各グループを特徴づけることができる。

これら各グループのしつけのやり方の特徴によって、その他の質問項目にどのような傾向がみられるか、クロス集計を行い、 $\chi^2$ 検定によって有意差を検定した。差のみられた項目は〔表42〕に示した2項目である。すなわちあらかじめ親の方で考えたしつけの方針を子供に伝えていくやり方の傾向の高い親が日常的なしつけにおいて基本的な生活習慣に力をいれる傾向が高く、反対にどちらかと言えば子供の考えに重みをおくしつけのやり方をする傾向のある親は基本的な生活習慣に力を入れる傾向が低い。また、しつけに対し特に積極的であるが子供をある程度自由放任する傾向のある親は日常生活において物事の判断力を養うことに力をいれる傾向が高い。

#### IV. まとめ

調査結果をまとめると、今回の調査から親のしつけに関する意識として以下の点を挙げることができる。

1. しつけの主な担当者としては殆どの場合で母親が挙げられているが、大部分の家庭である程度のしつけに関する話合いがなされていると考えられ、父親も半数以上が主な担当者として関わっている。特に母親が専業主婦の場合は、フルタイムで就労している場合に比べ父親が関わる率が有意に高い。相談したり参考にしたりするものとしてマスコミなどよりも身近な家族・親戚（子供から祖母に当たる者を含む）の意見が中心である。

2. 最終的に育てたい子供像としては、人間関係能力を挙げた者の割合が高いが、日常のしつけにおいては生活習慣に力が入れている率が高い。生活習慣に日常のしつけで力を入れている者にはしつけのやり方として親の方で方針を決めてそれを子供に伝える者の割合が高い。

しつけに積極的で子供をある程度自由放任している傾向の親は、日常のしつけで物事の判断力を養う点に力を入れている割合が高い。

3. 指示・叱責的な態度をとることが多いを選択している者の割合が、自分のしつけは厳しいと考えている者の割合を10%以上上回っており、指示・叱責的な態度を厳しい態度ととらえていない場合がある。

しつけが厳しいと回答している者は、第一子に多く、第三子以上では出生順が早い子供たちに比べあまいという回答が高い。

4. しつけに関する自信のなさは第一子に多く、第三子以上になると少なくなり、反対に悩みがないと回答する者は第三子以下の子供、第二子、第一子の順で少なくなる。

5. しつけの達成具合については半数強がまあまあできていると考えている。うまくできない理由としては、指導が不十分であることを第一としているが、しつけの方針が確定しないことを挙げるものが4割弱みられる。

今回の調査で限られた大分市内の幼児の保護者を対象としたものであるが、中都市での調査として先行調査から考えられる結果と重なっている部分もあり、この結果はある程度現代日本の幼児の親の一般的な意識を反映していると考えてよいと思われる。今後、今回得られたような傾向と、時代の動きに対して親はしつけをどのように意識しどのような心情を抱いているか調査・検討していくことが必要である。

謝辞 調査に快く御協力下さいました、大分市のだやま幼稚園、明野カトリック児童園、たかお保育園の各園、そして熱心にご記入下さいました保護者の皆様に深く感謝いたします。

#### 参考文献

- 1) 久世妙子他 日本とタイの親の養育態度の比較検討(第4報—育てたい子ども像としつけについて—愛知教育大学研究報告(教育科学編) 43 1994 p177-189
- 2) 伊達萬里子 家庭環境におけるこそだての実態調査 (No1) 武庫川女子大学紀要人文・社会科学編41 1993 p95-99
- 3) 三木直子他 幼児期のしつけと食行動について—徳島文理大学付属幼稚園アンケート結果より—徳島文理大学研究紀要45 1993 p117~129
- 4) 内藤徹他 幼児の自己主張について—しつけと認知スタイルの関係 金城学院大学論集146 1991 p57-71
- 5) 遠藤利彦他 母親の養育意識・養育行動の規定因に関する探索的研究 東京大学教育学部紀要31 1991 p131-152
- 6) 池山和子他 家庭から幼稚園に期待されるもの 鹿児島大学教育学部教育実践紀要第1巻 1991 p117-126
- 7) 総理府青少年対策本部 国際比較「青少年と家庭」—青少年と家庭に関する国際比較—1981

- 8) 内閣総理大臣官房広報室 昭和54年版 世論調査年鑑 1980
- 9) 石川晃三他 母親の養育態度に関する調査研究—五才児におけるしつけのあり方—桑名市教育研究所紀要 26集 1979 p1-44
- 10) 野垣義行 幼児をもつ母親の教育意識と家庭教育の実態—しつけにおける世代間の連続性を中心に—横浜における調査結果の報告(1) 横浜国立大学紀要12集 1972 p72-109
- 11) 押谷慶昭 全国調査にみるしつけの実態 総合教育技術27巻8号 1972 p60-64